

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894200027		
法人名	医療法人社団 天馬会		
事業所名	グループホーム天馬		
所在地	兵庫県相市旭3丁目2-18		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107		
訪問調査日	平成26年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム天馬では、関わりを大切にしています。天馬が考える「関わり」とは、お互いを「知る」「知ろうとする」事で、グループホーム天馬という新しい「家族」としての生活を送って頂きたいと考えており、ただ支援をするだけではなく、「利用者様と一緒に生活をする。」という視点から「見守り」「待つ」ということを大切にしている。これらの事を積み重ねることによって、精神活動の活性化・安定がはかられ、生活満足度の向上に繋がりは、ADLの維持・向上へと繋がっています。その事で、色々と皆さんでする事が出来、共同生活が営む事ができ、より家族となって行くと考えています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人ぬくもりが感じられるグループホームはフロアや廊下の壁面に季節感ごとの外出の楽しそうな利用者写真を掲示し、リビングのテーブルやソファで利用者は穏やかにすごされている。利用者は職員と共に毎日散歩に出かけごみ拾いや草抜きなど地域の一人としての関わりのある生活の継続に努めている。買い物も近隣の商店やスーパーで行い、顔馴染みの関係が出来ている。利用者は自立度が高く、毎日海や神社・商店等に全員で散歩に出かけ、季節の移り変わりを感じると共に、自然な形で下肢筋力低下予防が図られている。また、室内でも体操の時間を毎日持ち、下肢筋力低下予防に徹底して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議の冒頭で職員が毎回読みあげ再確認している。また、日々の関わりの中で理念を意識するようにしている。	職員が定着しているため、理念はほぼ周知できている状況にある。理念を意識して利用者とその人らしく過ごせるように支援に努めている。	理念・運営方針をより具体化し、全職員で振り返り・評価をすることで、理念をより一層ケアや支援に活かす事ができるような取り組みが望まれる。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日散歩に出掛けている花壇の掃除や草ぬきに参加したり、散歩コースでゴミ等があれば、拾う様にしている。また地域の祭り等にも参加している。	職員とともに毎日散歩に出かけごみ拾いや草抜きなど地域の一員としての関わりのある生活の継続に努めている。買い物も近隣の商店やスーパーで行い、顔馴染みの関係が出来ている。継続的に地域のボランティアの来訪があり交流の継続が出来ている。相生市・上郡町グループホーム連絡会の「合同実習研修会」への参加で、地域の事業者間との交流の継続も行って得ている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして養成講座に参加している。また、今年度は地域のグループホーム合同で一般の方に向けた勉強会等を行った。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他方面のメンバーの方々から、色々な意見・気づき・今後のケアについて等、率直な意見を頂き、議事録を職員全員で検討している。	家族代表者・地域住民代表者(民生委員)・地域包括支援センター職員、相生市健康福祉課職員の出席で定期的に年6回開催している。開催時には、利用者状況、事業所の活動状況の報告を行い、参加メンバーからの意見を参考にケアに活かしている。運営推進会議を、天馬連携勉強会で開催されたグループホームの勉強会に合わせて実施し、グループホームの活動状況を知らせてもらえる機会を設けるなど、開催の工夫を行っている。	運営推進会議を活かして、参加メンバーからより多くの意見や助言・提案が出やすいように、参加構成メンバーの再検討が望ましい。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	些細な相談や分からない事は相談し、直ぐに返事を頂き、良好な関係が築けている。	利用者の利用継続に対する相談や給付金に関する相談など、事業所から相談を積極的に行い、助言や指導をサービスや運営に速やかに反映させるように取り組んでいる。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外に出ようとされる時には、職員が声かけを行い思いを傾聴し、お茶を飲んだり一緒に散歩に出掛けている。また、ミニカンファレンス等を行い、職員間で拘束のないケアを検討している。	拘束をしないケアの提供を行う方針で取り組んでいる。職員は、利用者の動きに寄り添い支援に努めている。外へ出る入口はすぐに階段があるため施錠しているが、外に出たい意向がある場合には、速やかに職員が対応し行動を制限しないようにしている。ベット柵は使用していないが、センサーマットを使用するなど、職員が利用者の移動・行動動作を把握し転倒・転落防止のための支援を適切に行うことで、拘束をしないケアにつなげている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修と毎年行っている。日々のケアの中で「こんな事も虐待に繋がるのでは？」という事例を会議で検討し、虐待という正しい理解をしようとしている。	研修で「こんな事していない？」として虐待の勉強会を持ち、言葉づかいが心理的虐待につながっていないか、日々のケアで不適切ケアでの虐待がないかなど、虐待について事例を挙げ全職員で振り返る機会を持ち、職員個々が虐待についての理解を深め日々のケアに活かせるように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を毎年職員交代で参加している。また、利用されていない家族様にも説明させて頂く事もある。	権利擁護と心理的虐待の勉強会の中で権利擁護についても触れて学ぶ機会を持っている。制度活用をしている利用者もあり、制度の活用が必要であれば手続きが進められるように支援する体制が整備されている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・申し込みに来られた際には、ホーム内の案内・パンフレットでの説明・実際に利用者様がおられるフロアで様子を見て頂く。また入所前には「契約書」「重要事項説明書」に基づき説明した上で双方で内容を確認し、納得の上で署名・捺印を頂いている。	契約前に、在宅で利用しているサービス事業所などに出向いて状態状況把握や説明を行い、利用者・家族が事業所利用を十分に納得した上で契約できるように配慮している。入院時の事業所の対応については契約時に説明を加えて行っているが、今後、より具体的に詳しく理解してもらえるように説明方法を検討している。利用者・家族の状態に応じて、質問に対する返答を書面を作成し、利用者・家族に渡し理解を深めてもらえるようにしている。介護保険の改定に伴い契約書・重要事項説明書の内容に変更が生じた場合には、家族会で説明を行い理解を得て同意を得るようにしている。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口には、苦情・相談箱を設置している。運営推進会議にも固定したメンバーではなく、毎回交代で家族様に参加して頂いて、市・包括・民政委員の方々との意見交換の場がある。また、家族会を年数回設け、職員との交流の場を設けている。	家族も高齢化してきており、管理者が家族の自宅に可能な範囲で訪問し、計画に対しての意見や要望だけでなく、運営やサービスに対してもゆっくりと話を聞き聴取するようにしている。家族から出された意見や要望は、ケアプラン表に記載する他、職員連絡帳等にも記載し、職員間で情報共有を図り、運営やサービスに速やかに反映させるように取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議には法人からも参加があり、職員の意見・提案を聴き、法人からの意見・提案も取り入れている。また、気付きがあれば些細な事も連絡帳に誰でも記入し、意見も記入している。	ケア会議・全体会議を毎月実施しており、職員が意見や要望・提案を出す機会となっている。普段から管理者は職員が意見や要望を出しやすい関係の構築に努めており、気づきや意見・要望・提案を管理者に申し出る事も多い。職員から出された意見や要望・提案は全体会議の機会に話し合い、反映させるようにしている。全体会議には、法人の部長の出席もあり、活発な意見交換と速やかな反映ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査があり、自己評価に基づいた個人の努力や課題を明確にし、意欲を引き出すようにしている。給料水準の引き上げや休憩時間、有給休暇など取りやすい環境へ改善され、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の設備に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、職員のスキルに合わせ全員が受講し、その研修後に内部研修として全員が勉強できるように努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGh(5施設)と合同研修会・他Ghへの実習・管理者間の交流を定期的に行い、質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、自宅に訪問させて頂いたり、家族様と共に見学・面談に来て頂き、ゆっくりと時間をかけ生活歴を初め、利用者様の気持ち・要望・想いを受け止める事に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には、自宅に訪問させて頂いたり、家族様と共に見学・面談に来て頂き、ゆっくりと時間をかけ生活歴を初め、利用者様の気持ち・要望・想いを受け止める事に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様がいま置かれる状況を的確に把握し、その時に必要としていることを最優先に支援できるようにしている。必要に応じて、法人内外の他のサービスや機関への連携も行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝食後の清掃からはじまり、散歩・買物・食事の準備・洗い物・洗濯物等、職員と共に生活を送り、関わりの中で会話を増やし、楽しく共同生活ができるように努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間の「行事計画予定表」を家族会にて事前に説明し、月1回は参加して頂けるように声かけしている。また、ホーム便りにて個々の写真も添付し、利用者様の普段の生活をより身近なものとして感じて頂けるようにしている。		

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの喫茶店に出掛けたり行きつけの理美容室・墓参り・親族との関わり・毎日の買物等、入所前と変わらず付き合いや関係や継続できるように支援している。	家族との関係も継続できるように家族を含めて旅行に出かける機会を設けている。馴染みの美容院や商店など、利用者の外出の希望があれば、個別の支援で馴染みの人や場所への関係の継続ができるように支援している。馴染みの人の来訪があれば気持ち良く面会できるように配慮する他、馴染みの人との外出も楽しめるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩・外出・レク等、常に5～6名で行動される事が多く「皆は、どこにいったの？」と言葉が出てくる程、休息以外はフロアーや戸外で仲良く過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や入院された後も、面会に行ったり病状を尋ねる等、常に関わり家族様の相談や支援を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中はフロアで常に職員が2名で関わり、利用者の動きや表情をみて、意向・思い・希望を感じとれる様にし、その思いを職員間で共有するようにしている。また、意思表示が困難な方には、家族からの情報を大切にしている。	自ら思いや意向を話される方が多く聴取するようにしている。日々の利用者との関わりを持つ中で、利用者とのゆっくり話をするように心がけており、話の中から利用者の思いや意向・希望を聞き出すように取り組んでいる。また、自らの訴えだけでなく、動きや表情の観察を通して、利用者の思いや意向を引き出す話しかけや声かけを行うようにしている。利用者一人ひとりの思いや意向・希望は、職員間で情報共有し支援に活かすように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接時に家族様と数回にわたり生活歴や嗜好を聞いている。また、入所前に家族様にセンター方式を手渡し、記入出来る場所は記入して頂き、全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく生活して頂こうと支援する中で、出来る事・出来ない事を把握し、心身共に健康で過ごして頂けるように努める。		

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のケア会議にて、生活の中からの課題をスタッフ全員で話し合い、気付きや意見を取り入れている。また、家族様来訪時にも意見・要望を尋ねたり、メールができる家族様とはメールでも連絡を取り合って情報の交換をしている。</p>	<p>生活援助プラン表でアセスメントを行い、施設サービス実施暫定の計画を作成している。利用開始後担当者会議を開催し施設サービス計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、状態の変化で計画の変更が必要な場合には、適宜変更を実施している。モニタリングの結果、状態が安定している場合でも6カ月に1回は計画の見直しを実施している。計画の見直しを行う場合には、担当者会議を開催している。計画に沿って実施したことは、「行動実施表」のケア項目の実施状況をチェックすると共に記載し、計画の実行状況が分かるようにしている。利用者の生活の様子は、「毎日のおしらせ」として日々記載されている。毎日のお知らせは毎月、家族に送付し生活の様子がわかるようにされている。支援経過記録(ケース記録)にも記載内容が明確にわかるように項目を挙げ日々の利用者の生活の様子や変化が時間を追って詳細に記載されている。利用者の様子の変化が見られた場合は業務日誌にも記載され、職員間で情報共有を図り、利用者の個別の支援にスムーズに反映されるように取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別支援記録・業務日誌・受診記録・行動実施チェック表等、個々に作成し、関わった職員が毎日記録し、毎月のモニタリング時に見直し、介護計画の見直しに生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者や家族の状況、要望に応じて「その人らしい生活」が送れるように個々のペースに合わせた支援を行っている。</p>		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの皆さまには3～5回/月のご協力を得ている。また、市民会館の催しもの・図書館・毎日の朝の日課の神社へのお参り等、地域の皆様との交流を楽しんで頂いている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、医療面で安心出来ているという家族様が多く1回～2回/月、主治医の受診を受けている。受診が必要な時には職員が付き添っている。また、病院院長の訪問診療もあり、家族様に安心して頂いている。利用者によっては他院への受診もあり、通院も支援している。	母体の医療法人の院長の定期的な在宅患者訪問診療が開始され、月1回～2回は診察が受けられるように支援している。急な病状の変化時には、母体の医療法人に相談し、必要時には医師の来訪での診察や職員同行での受診など、適切な医療を速やかに受けることができるように支援している。高齢者の健診についても家族に受診票を持参してもらえようように説明しているが、健診受診には至っていない。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、24時間体制で報告・連絡・相談がとれるようになっている。また、急変時も素早い対応が出来る。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対して、入院時には本人の状況や状態を情報提供し迅速に対応してもらえるように努め、退院時はサマリーにて情報提供を受けたり、Dr.からのIC時に同席し、退院後の計画を一緒に考えて早く退院前の生活に戻れる様に支援している。	入院時には、医療機関に対して情報提供を行っている。入院中も病棟に出向いて直接病状について説明を受け、状態把握を行い、早期に退院に向けた支援ができるように連携を図り取り組んでいる。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については契約時に説明と同意を得ているが、御家族との面会の際にも、話し合いの機会を多く持つようになっている。	契約時より重度化・終末期への対応については説明を行い、契約時の意向確認を行っている。家族の大多数は医療的な処置・支援を希望されており、医療を優先させる方には看取りを実施していない。看取りの指針については作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の病院内にて毎月開催される勉強会や消防署の救急蘇生やAEDの講習を受けている。また、緊急マニュアルはいつでも確認できるようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体病院と共に、年2回の消防・非難訓練を行っている。警察署にも災害時の対応について講習を受けたり、民生委員の方にも災害時の応援を依頼している。また、GH独自で非難訓練を実施している。	母体の病院と共に年2回の消防・避難訓練を行っている。消防設備の設置場所や避難経路など消防署の指導を受け、現状にあった整備に取り組んでいる。グループホーム独自での訓練の実施は平成23年実施している。	グループホームの現在の利用者の状況を考え、現状に即した避難誘導の事業所独自の自主的な訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の場や排泄・入浴介助時等で、職員の行動・声かけが利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねないように、職員間で声かけし、会議などでも意見を出し合って確認しあっている。	生活の各場面で利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を損ねないような言葉かけや対応をするように努めている。尊厳やプライバシーに触れる場面があれば、職員間で声かけや注意をし合い周知するよう取り組んでいる。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との個別な関わりの時間を作り、会話や表情の中から想いをくみ取るようにしている。また、選択肢のできる声かけ・意思表示がしやすい環境作りに心がけている。コミュニケーションがとりにくい方は、筆談・ゼスチャー等で対応し、理解して頂けるように努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日に流れは大まかに決まっているが、レク・散歩・買物等その都度声かけさせて頂いて、本人の意思を尊重しているが、自分でペースを作れない方には体調・表情をみて職員がつくる場合もある。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に季節や気温に応じて、職員と一緒に日常着を選んでいる。職員と一緒に洋服を買いに行かれる方も多い。又、訪問の理美容が安価である為、利用される頻度は多く、馴染みの理髪店・美容院にも行かれる方もおられる。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に毎日、「買物」「料理」「片付け」「洗いもの」等、個々の能力に応じた役割がある。食事のメニューも毎日利用者様と買物に出掛けているので、買物中に食べたい物や旬の食材等があれば、変更し、柔軟に対応している。	季節や利用者の好み・希望を聞き職員が交代で献立を立てている。献立に応じた食材の購入には、近隣の店舗やスーパーへ利用者と共に出かけている。利用者が食材の下準備や調理ができるように職員が場面を設定している。盛り付けや配膳・後片付けまで利用者の能力に合わせて参加を継続的に行ってもらえるように支援している。水分摂取量も1000cc～1500ccはとれるように生活の中で頻繁に勧め、脱水予防に努めている。現在は咀嚼・嚥下の機能低下をきたしている方がないが、病状や咀嚼・嚥下状態に応じて柔軟に食事の提供が行えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェック表に記入し、栄養状態の観察や脱水症状が起きない様に努めている。また、献立を管理栄養士にチェックしてもらい、バランスのとれた食事にかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援している。また、半年毎の歯科定期受診を行い、チェックしてもらっている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、それぞれの排泄パターンを把握できるように努めている。また、自尊心を損なわない誘導の声かけに留意している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりにあった排泄支援を行うようにしている。排泄の支援を行う時には、声の大きさや声かけのタイミングなど羞恥心等に配慮するようにしている。	

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を毎日チェックし、食材の工夫・散歩・体操等を取り入れる事で、出来るだけ下剤に頼らない自然な排便習慣がつくように心がけている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を確認しながら、毎日入浴される方・夜間浴の方・日中に入られる方と様々であるが、少なくとも3回/週は入浴して頂いている。	入浴は希望や体調に合わせて、基本的には隔日に入浴してもらえるように支援している。希望があれば、毎日でも気持ち良く入浴を楽しめるようにしている。利用者の希望に応じて、できる限り同性介助で行えるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決まっておらず、日中の活動量・夜間の睡眠状態を考慮し、その人に合わせた休息をとって頂いている。日中も、昼食後は全員の方に休息の声かけを行っているが、本人の意思を尊重し、その日の活動状態。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬の説明書」「検査報告書」「受診記録」を一緒にファイルし、一目で関連付けて把握できるようにしている。また、定例薬の変更・臨時薬などは、業務日誌・ファイル等にて申し送りを徹底する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブが好きな方・食事を楽しみにされている方、お稽古を続けたい方・買い物が好きな方と楽しみや気分転換等を支援している。		

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、全員の利用者様に20分から60分の外出支援ができています。また、土・日曜日には気分転換も兼ね、車にて出掛けている。年間行事の外出には家族様も参加して頂いている。	毎日海や神社・商店等に全員で散歩に出かけ、季節の移り変わりを感じると共に、自然な形で下肢筋力低下予防が図られている。また、室内でも体操の時間を毎日持ち、下肢筋力低下予防に徹底して取り組んでいる。毎年計画を立て、季節の花を見る外出を実施し、四季の移り変わりを体感してもらっている。2年に1回は、家族の希望者に一緒に参加してもらい、一泊の旅行に出かけ、気分転換やストレス発散ができるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替金として施設側が準備し、必要な物・好きな物を買って頂けるようにしているが、自己管理が可能な方・家族に紛失の了解を得ている方には本人様の意思を尊重し、お持ち頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をいつでも使用したい時に使用して頂いている。また、携帯電話を持っておられる方もいる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー・廊下等には写真や作品・花等を飾り、季節感を感じて頂けるようにしている。食事の時にはBGMを流したり、テレビの音量なども配慮しています。	明るいフロアーや廊下の壁面に季節感ごとの外出の楽しそうな利用者写真を掲示している。リビングのテーブルの椅子やソファで利用者は穏やかにすごされている。キッチン是对面式になっており食事準備の様子や食事の匂いからは家庭的な雰囲気を感じられる。廊下のスロープを利用して段差を解消しており、利用者が自然に下肢筋力の低下予防・増強ができるようになっている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー・ホール・廊下にはゆっくりと過ごせるスペースを作っており、テレビを観たり談笑されたりと、どこでもくつろげる空間作りを行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられたソファ・テレビ等、馴染みの家具を持って来られたり、週毎のレクでの「生け花」が飾ってあったりと、今までの生活スタイルが少しでも維持できるように努めている。	人の気配が感じられる居室は利用者が安全に安心して過ごせる空間となっている。利用者の能力に合わせて室内清掃を支援し、利用者は、仏壇や使い慣れたものを持ち込み利用者の趣味や嗜好を活かした居室空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	老人車・杖を使用されている方も、見守りの中手すり等を使用し、歩行練習等をして頂いている。また、トイレの表示等もわかりやすくしている。		